

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670105214
法人名	社会福祉法人 鶴陽会
事業所名	グループホーム あけぼの
訪問調査日	平成22年1月25日
評価確定日	平成22年2月25日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年1月31日

【評価実施概要】

事業所番号	4670105214
法人名	社会福祉法人 鶴陽会
事業所名	グループホーム あげぼの
所在地	鹿児島県鹿児島市山田町2019番地 (電話) 099-275-9330

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま		
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号		
訪問調査日	平成22年1月25日	評価確定日	平成22年2月25日

【情報提供票より】(21年12月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 20 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 13 人, 非常勤 5 人, 常勤換算	16.5 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋	造り
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	37,500 円	その他の経費(月額)	24,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1000 円	

(4) 利用者の概要(12月25日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	5 名	要介護2	10 名		
要介護3	1 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2			
年齢	平均 87.6 歳	最低	74 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大勝病院 入来クリニック 丸谷歯科
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

同敷地内に特別養護老人ホームやケアハウス・乳児院があり、同世代との交流や乳幼児とのふれあいが日常的に楽しめるホームである。「今日も1日あなたが笑顔でいられますように！」をモットーに職員同士はコミュニケーションをよく図り、毎日の送り・終礼時を活用し、日常的に改善に向けた話し合いをもっている。また、各委員会(研修、給食、美化、行事・レクリエーション、感染)を設け、人材の育成・資質向上を図っている。利用者もできる力を活かした役割を果たしながら楽しんで生活している。利用者は人生の先輩であるという気持ちを職員は共有し、お互いに支え合う関係を築いている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価での改善すべき課題はなかったが常により良いケアを目指し取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>各ユニット毎に時間を設け、全職員で自己評価に取り組んでいる。結果は全家族に配布するとともに閲覧できる状態にしている。運営推進会議でも報告している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>定期的に家族代表、民生委員、地域包括センター、町内会長、職員の参加を得て開催している。ホームの状況報告、家族会内容、改善案など意見交換を行いサービス向上に活かしている。話し合いの結果はホーム便りや家族会で報告している。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>意見箱を設置、家族会も年2回行っている。職員は面会時に会話から家族の意見を吸い上げるよう耳を傾け、出された意見は毎日、送り・終礼時に検討し、前向きに運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、地域の清掃に参加している。民生委員や町内会長の支援をもらい地域の行事に参加したり、施設主催の夏祭りには地域住民も参加し、交流が来ている。専門高校実習生も受け入れている。ホームでの行事には地域住民のボランティア参加もある。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの理念を職員全員で話し合い、事業所独自の理念をつくりあげている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、理念と職員の話し合いから出たケアに必要なテーマを唱和している。ホームの玄関、リビングに理念を掲示、入居時家族にも配布し理念の啓発を図っている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域の清掃に参加している。民生委員や町内会長の支援をもらい、地域の行事(運動会、文化祭、グランドゴルフなど)に参加、施設主催の夏祭りには地域住民の参加もあり、交流ができています。専門高校の実習生も受け入れている。ホームでの行事には地域住民のボランティア参加もある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	各ユニット毎に時間を設け、全職員で自己評価に取り組んでいる。評価することで振り返りの機会となり意義あるものと捉えている。結果は全家族に配布するとともに閲覧できる状態にしている。運営推進会議でも報告している。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に家族代表、民生委員、地域包括センター職員、町内会長の参加を得て開催している。会議で家族から「1階入口にセンサーを取り付け、不審者防止を図って欲しい。」との意見をもらい、安全対策としてサービス向上に活かしている。会議の内容は家族会でも家族代表より報告している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者とは運営上の相談など連携がとれている。地域包括センター職員は運営推進会議に参加してもらい、情報交換を行いながらサービス向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ホーム便りや季刊誌を発行し、暮らしぶりや職員異動について報告している。健康面は変化があればその都度、担当者が個別に報告している。預かり金の金銭管理は行っていないため立替え料のお知らせをし、徴収している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置、家族会も年2回行っている。職員は面会時に家族の意見を聞き、出された意見は毎日、申送り・終礼時に検討し前向きに運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	なじみの関係構築のためにユニット間、法人内異動は少ない。新しい職員と利用者のなじみの関係ができるまで担当職員と一緒にケアを行ない、受け入れはスムーズにできている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を作成し、外部研修には交代で参加している。ホーム内研修は毎月1回研修委員会を中心にテーマを決めて勉強会を行っている。地域のグループホーム協議会主催の勉強会にも多くの職員が参加し、情報共有化を図っている。職員の資格取得にも協力している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	谷山地区のグループホーム協議会に加入、管理者、職員も参加して交流、情報交換などを行いサービスの質の向上に努めている。谷山祭りには連絡協議会踊り連として職員が参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	病院や施設からの利用者には事前に面談し、自宅からの場合は利用者、家族に見学してもらい、納得した上での利用開始となる。落ち着くまでは家族の協力をもらいながら取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で喜怒哀楽をともにし、支え合う関係を築いている。おはぎ・梅干・漬物作りなど人生の先輩として敬う気持ちを持って接している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で家族の思いを聞いたり、利用者の行動やちょっとした発語も聞き逃がさずメモし、申送り時、終礼時に報告して全員で話し合い、検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族、職員、医師の意見・情報などを検討している。ケース記録をとり、問題が生じた時はカンファレンスを行い、利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケース記録やカンファレンス記録で情報を共有、見直しに活かしている。3ヵ月毎のモニタリングや評価をしている。心身の状況変化に応じ、随時、関係者などと協議し介護計画を変更している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の意向や状況に応じ、通院や買い物、美容院などの外出も柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医と信頼関係を築いており、適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応は家族会で話し合い、ホームの方針として重要事項説明書に明記し、同意書もとっている。段階に応じて医師、職員、家族と話し合い、最大限の支援が出来るよう全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	接遇の研修も行き、利用者一人ひとりの性格を把握し、プライバシーに配慮した声掛けをしている。記録や個人情報についても周知、徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが個々の主体性を持った生活を大事にし、利用者の希望に沿って支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が一緒に食事の準備や調理を行い、同じテーブルで話しながら、時にはホーム菜園で収穫した旬の野菜が食卓にあがるなどして食事を楽しんでいる。特別な日はお弁当箱に盛り付け雰囲気を変えて楽しんでいる。食事中は利用者の笑顔がたえない。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に入浴は週3回以上であるが本人の意向により随時入浴できる。入浴剤を使って一人ひとりリラックスできるように配慮している。体調の悪い利用者には清拭、足浴を実施している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホームのお誕生会、ひな祭りには利用者がオルガンを演奏したり、のど自慢、歌謡番組、時代劇などのテレビ観賞や新聞、雑誌の講読、日記を書いたり、菜園、花作りなど生活歴、力量を活かした役割、楽しみごとを支援している。また、毎月外出、レクリエーション計画を立て、初詣、花見、遠足など気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	園内・園外の散歩、買い物に行ったり、また、隣接の乳児院・老人ホームへ日常的に訪問し、ふれあいをもっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を理解し、日中は職員が目配り、気配りを行い、鍵をかけないケアを実践している。自動ドアにセンサーを設置し、安全な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人合同で年2回、ホームのみで年1回消防署立会いのもと夜間想定で実施している。スプリンクラーの設置や自家発電確保もあり、通報システムにも民生委員宅を入れて、近隣の協力依頼もしている。また、非常時の備蓄もしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは給食委員会(栄養士資格を持つ職員がいる。)を中心に定期的に献立のチェックをしている。利用者一人ひとりの状況に応じ食事、水分摂取量の把握やきざみ・お粥など食事形態も工夫している。水分摂取に問題がある利用者にはスポーツドリンク、ゼリーで対応している。入浴時、週1回体重測定をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	坪庭もあり、近代的な造りの広く明るいリビングにはソファ、テレビ、オルガン、花や季節を感じる飾りつけがある。美化委員会やレクリエーション委員会があり、利用者が居心地よく過ごせる工夫をしている。冬場は加湿器を置いて風邪予防対策をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	直接ベランダに出られる開放的な居室になっている。テレビ、ダンス、椅子、テーブル、ラジオ、家族写真、家族の書いた「書」など、個々、利用者の好みのものを活かし、居心地よく過ごせるように工夫している。		